

自分らしい生き方を人生の最終段階まで続けるにあたっての課題

1. 本人の課題

- ACP のことを知らない人がほとんど（認知度 3%）
- 事前に人生の最終段階について話し合う機会がない（約 60%）
- 本人の意向が必ずしも尊重されていない
- ACP についての情報不足（なお、希望する情報提供元は医療機関や介護施設が約 70%）
- 事前指示書を作成している人は全体の 8%、代理意思決定人の選定は 22%
- 適切な情報を元に対話を繰り返し、意思決定まで寄り添える人がいない
- 決められない人への支援の手が届きづらい

2. 家族等の課題

- 本人と家族の意向の乖離
- 最終的に家族の意向が優先されることがある
- 家族等の中で意見が割れた際に、代理意思決定の決定権者が明確でない
- 本人の意向が示されていないときの、意思決定の重圧（保守的になりがち）
- 本人の発言を言葉どおりに受け止めて良いのか

3. 医療・介護従事者の課題

- 本人の意向の不在
- 意向を表明されていても、家族や嘱託医の意向で叶えられない／具体性に欠ける／更新されていない
- 訴訟リスク（例え意思表示されていても、のちに家族に訴えられる）
- 外来で多忙なため、ACP を始める時間がない
- ケアにあたる人々の役割分担や連携が不十分
- ACP の内容を関係者で共有する仕組みがない（本人の意思が変わった際に、迅速に内容を反映させる機能が必要）

4. 社会環境の課題

- 本人が望む退院先が確保できない
- ケアにあたる保健／医療／福祉の機能連携が不十分（地域包括ケアシステムの整備／充実）

- 生きているうち／治療中に死に関して話し合うことは不謹慎という考え方が存在する
- 法制度が追い付いていない（救急搬送や本人の意思の尊重など）
- 情報連携のためのツールが存在しない／情報が本人について回らない
- ACP の認知度が低い／情報提供や相談体制が足りない
- 講座やサロンに集まらない市民への情報提供が困難（情報格差や意識格差の是正）
- コロナの影響で家族と対面で会えない（本人と家族、支援者と家族）